

いいだ人形劇フェスタ2018・世界人形劇フェスティバル たくさんの感動に出会えた夏



十日の本館には、二劇団をお迎えし、最初に伊勢市から来られた家族劇団の「人形劇団ししかばね」さんは、「たぬきでポン」という山寺の小坊主ぼん休さんといったずらたぬきとの掛け合いの劇と謎の生き物リッチーくんのハチャメチャな紙芝居があり、小さいお子さんが楽しんでいました。次の取手市から来られた「影絵劇団打ち出の小づち」さんは、一人で演じられていました。今回は「一寸法師」を上演されましたが、子ども達に人形を持たせて参加、体験する形の劇でした。

上演後の懇親会では、役員やボランティアの皆さん

による、流しそうめんが行われて大盛況でした。十一日は、四劇団による公演が行われました。最初は、「劇団月見うどん」さんによる「ソメコとオニ」と言う演目で、怖いはずのオニがソメコという女の子に振り回されるというコミカルなお話で皆さん楽しんでいました。続いて、「さんちゃん

と」さんによる「三まいのおふだ」という腹話術を挟みながら、磁石パネルを使った紙芝居を演じられました。途中、パネル内の動作がうまくいかないなどのアクシデントや物語と関係ないボケを腹話術を使って笑いに変えな



上演後の懇親会・流しそうめん

今年も夏の風物詩「いいだ人形劇フェスタ2018」が八月三日(金)から開幕しました。今回は、「世界人形劇フェスティバル」を併催し、十日間にも及ぶ長期の公演期間となりました。竜丘地区のワッペン公演として、三日の時又ふれあいセンターの公演を皮切りに、全十五劇団による公演が竜丘地区内で行われました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,849人
男子 3,352人
女子 3,497人
世帯数 2,555戸
(30年8月末現在)

最後は「ロペシュダウラット」さんが、普段は一公演で二物語だけ行うアンデルセンの物語を今回だけは四物語も演じてくれました。四つ目の物語では、ペリコという謎の生き物との掛け合いをしながら演じられていました。劇の終わりに、ペリコが会場の皆さんにキッスの挨拶をして回り、先回りして何回も挨拶を交わしているお子さん

特集 竜丘の文化遺産 自由画



〈大棟〉ふ美子さん(大正十二年・六年生)



〈電車の中〉中田さん(六年生)

児童自由画は、どれを見ても、心豊かな気持ちになります。今回は、ふ美子さんの「大棟」と中田さんの「電車の中」を選んでみました。真つすぐ伸びた大棟と納屋・麦畑・山々は山本鼎を感嘆させたといわれています。「電車の中」は、しっかり観て、描かれ、ほのぼのとした温かさを感じることが出来る過程や気持ちを大切にしていた紫水の教えがうかがえると感じます。

会場の運営には公民館の役員の方にご協力をいただいています。その他ボランティアとして、小中学生が手助けに入っていました。ボランティアの方々は、受付の運営から始まり、スタンプを押したり、アンケートを配布・回収したり、来場者の人数を数えたりと楽しそう

生演奏をバックに
熱演!! (桐林)

各分館の公演の様子

お伽ラッパ「笑ってよう
フリー」あやつり人形
が観客席へ。見ていた子
ども達も大喜び!!
(長野原)えびす舞・三番聖も
観客席へ (駄科)見たまま
お寺のおしょうさん
(時又)おはなしや♪(上川路)
これなんだ?!

しかし、その幸せを一瞬で奪うのが災害である。大阪府北部地震、西日本豪雨、台風二十一号による高潮暴風雨被害、北海道胆振東部地震などが立て続けに起こった。その一つ一つは大きな被害であるが、次々と起こる新たな災害に震えが止まらない。他の被災地でも、自宅に戻れない人々は今もなお多い。西日本豪雨の被災地では千五百人以上、熊本地震では二万八千人、東日本大震災では五万八千人が仮住まいをしていると聞き、その多さに改めて驚いた。

幸せを守るためにも、災害に対しての備えをしかりしておくこと、想定外の災害が多く続くため、自分の身は自分で守るよう備え情報を得ることが大切だと痛感した。

ちびまる子ちゃんの作者さくらももこさんが亡くなった。ちびまる子ちゃん、学校での出来事や友だちとの関わり、家族との生活、旅行など、日常の喜怒哀楽をコミカルに表現しており、子どもの頃から毎週楽しみに見ていた。

人は、幸福と感ずることが多くあっても、いくつかの不幸な出来事があると、全体を不幸だと感じてしまいうらしい。改めて日常を振り返ってみると、家族がいて一緒に食事をできる幸せ、喧嘩もするが同じ時間を共有する幸せ、何より自分なりに健康で過ごせること、笑ったりする仲間がいること、美しい景色が眺められることなど、幸せと感ずることが多い。当たり前のことだが、人との関わりの中で暮らしていることを実感する。家族や友達などに改めて感謝したい。

ヤフー

第1回 川で遊ぼう！

暑さを忘れる魚のつかみ取り



八月二十六日残暑厳しい午後「第一回川で遊ぼう！」が、久米川下流で行われました。

昨年度までは、水辺の楽校周辺で色々なことを行ってきましたが、今年は、久米川下流で魚のつかみ取りを行いました。

当日は午後一時半頃から獲った魚を入れるバケツ等を持参した子供たちが集合しました。そこでマス四百匹、そして、今回の目玉の魚、信州サーモン二匹が放

流されました。それを見ていた子供たちが、「あいつは、俺が、捕まえる」「私が、捕まえる」と声が、あちらこちらから上がっていました。

開始時間の二時頃には、約百人の親子が集まり、開会式が行われ役員の挨拶、そして、川は浅いとはいえず自然の川ということで、注意事項等をしつかりと説明していました。

開会式が終わり、「よい・ドン」の掛け声と同時に、幅約十メートルの川で、最初の約三十分間を子供たちだけで魚のつかみ取りが行われました。早い子供たちは五分と経たないうちに捕まえていました。また、今回の目玉の信州サーモン



二匹も三十分と経たない内に捕まえていました。約三十分過ぎた頃に、大人が応援に入り、親も童心にもどって自分の経験を元に、子供たちにアドバイスをしなが、一緒に魚を追い詰め捕まえていました。終了に近づくと、役員が網で捕まえて、また一匹も捕まえていない小さな子供たちに配っていました。



参加型地域社会開発

交流と学びの会 竜丘 加藤 守孝

PLSD
研修生
来飯

JICA事業・参加型地域社会開発(PLSD)研修の飯田研修が一週間の日程で行われました。六ヶ国十一名の研修生が八月二十一日に竜丘を訪れ、地域自治の仕組みや公民館活動について学びました。新井主事、宮嶋聡子さん、伊東正直さん、鈴木運友さんは公民館の仕組みや活動のいろはを、下平隆司さんは地域自治の仕組みについて詳しく講義をされました。

住民活動を体験してもらったため訪れた新井原集会所では、自主運営している高齢者サークルふれあいサロンの皆さんと、折り紙体験

で交流をしました。言葉が勉強し、実際に地域住民と触れ合ってみて「本当にできるんだ」と意識が激変したことを興奮気味に話してくれたのが印象的でした。

講話の後、研修生からは、公民館についての質問が数多く出されました。「公民館委員には給料が出ているのか」という質問に「本館の職員以外には出ていない」との回答にはとても驚いていました。飯田に訪れる前に「住民がこんな活動を自分たちでできるわけがない」と講義を聞いて言っていたジバンバエの職員フィビオンさん。竜丘で住民の活動を



PLSD研修生と地元住民の交流の様子。

第一部では飯田市長から市政経営の方向について説明がありました。飯田未来デザイン2018から、産業面からリニアを中心とした学術研究都市づくり、また、人づくりの面から地域人教育、特に高校以降の教育に公民館が関わっていくことで人材が流出しないような取り組みについて等の説明がありました。

第二部では竜丘における県道への不法投棄対策(笹岡環境委員長・桐林コミュニティ広場の芝生化(久保田地域振興副委員長)・道路や河川における支障木対策(田添駄科区長)の三つのテーマについて、現状や取り組みの発表が行われまし

飯田市の未来と 竜丘の課題

～市政懇談会～

丘保育園の園庭などを一部芝生化し実証事業を行っていきいます。それらを踏まえて、いった現実的な意見も出され、今後の検討事項が明確になってきました。

第一部は飯田市全体の未来を見通す内容であり、第



た。その後、三つの会場に分かれてそれぞれの発表内容をもとに懇談会が行われました。

第二分科会は旧竜丘保育園跡地の芝生化について懇談がもたれました。現在竜

二部は地域の現実問題を語る内容であり、この二つの問題がどのように関連してくるのかについては、若干かけ離れている印象も感じました。しか

第40回 竜丘市民大学講座

(兼虫干し体験)

9月9日(日)午後1時から40回目となる竜丘市民大学講座が開催されました。



平成30年度 あいさつ標語

応募総数 367通

今年度テーマ「地域のひととのふれあい」

最優秀賞

5年2組 鶴巻 陽之介
「竜丘は あいさつとびかう 豊かな地」

館長賞

2年1組 小木曾 与主愛
「おはようと 毎朝会う人 ほっとする」

育成委員長賞

1年2組 今村 美月
「おおきなこえて あいさつ おじさんおばさん につこにこ」

PTA会長賞

4年1組 塩澤 真緒
「おはようを しながらあるく 通学路」

優秀賞

3年1組 下平 柚奈
「ただいまと やさしさあふれる 地域の輪」

6年2組 溝口 空翔
「広めよう 地域のひと あいさつを」

今回のテーマが「民俗資料保存委員会」の取り組みについて、多くの子供が、まだどこかに残って居ないかと探していました。

子供たちには、夏の終わりに楽しい思い出が、また一つできたことと思います。



民俗資料館の展示の様子。